

[外国語]

外国語におけるICTの活用

－プレゼンテーション機能を活用した話すこと [発表] の実践－

江口 宗俊*

1 主題設定の理由

近年、情報化社会が進み、産業や社会生活にAI（人工知能）やビッグデータといった先端技術が取り入れられICTが生活に欠かせないものとなっている。文部科学省は「社会生活の中でICTを日常的に活用することが当たり前の中となる中で、社会で生きていくために、必要な資質・能力を育むためには、学校生活や学習においても日常的にICTを活用できる環境を整備し、活用して行くことが不可欠である。」¹⁾として、GIGAスクール構想を示した。これにより、各学校の校内LAN整備や、児童生徒への1人1台端末の配付が行われ、実現に向けての整備が進められている。

小学校では、2020年より新学習指導要領が全面実施となった。外国語教育では、小学校高学年は教科化され、「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の5領域となった。これらの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目標としている。小学校学習指導要領解説では「児童が言語活動に主体的に取り組むことが外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を身に付ける上で不可欠であるため、極めて重要な観点である。」²⁾としている。

また、小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックでは、「話すこと [やり取り・発表]」の指導について「自分が伝えたい内容をもたせ、相手意識や目的意識を明確にした、意味のある活動を設定すれば、児童は意欲を高めるようになる。実物やイラスト、写真などを見せながら発表させる。内容を推測させる手がかりとなるため、聞く側も発表を理解しやすくなる。発表者にはどのような具体物を示せば自分の伝えたいことが伝わりやすいかを考えさせるよい機会ともなる。」³⁾と伝えたいことを明確にもつことや相手に伝わりやすいように工夫することが大切としている。

国立教育政策研究所が行った小学校英語教育に関する調査研究によると、高学年児童への質問紙調査の結果、「英語で自分のことや意見をいうこと」が楽しいと感じる児童は49.2%という結果であり、「外国語活動が歌やゲームだけで終わってしまい、児童が自分の立場で自分の考えや気持ちを指導者や友達と伝え合うコミュニケーションにまで至っていないのではないか。」⁴⁾と以前の学習指導要領下の学習での課題を挙げた。これまでの実践を振り返ると、「話すこと」についてペアやグループでのやり取りの活動は児童が自ら相手に話しかけたり、聞いたり充実した活動になっていることが多かった。しかし、発表となると苦手意識をもつ児童が多かった。大勢の前で話すことへの不安や発音への不安など様々な要因で、伝えたいことを伝えられないことが課題であったと考える。また、聞き手が聞き取れなかったり、知らなかったりすることもあるため、実物を用意できず言葉のみの発表だと、相手に伝わりにくい場合も多く、発表した児童が「聞いてもらえた」「相手に伝わった」という実感が伴えない様子が多く見られた。発表する側にとっても、聞く側にとっても不安がある中での活動となっていた。

外国語教育におけるICTの活用について、喜多(2018)は、「文字情報を添えたイラストを手掛かりにお気に入りの行事とそれに対する感想を述べ合うことができた。」⁵⁾と知らない英単語でもICTを活用しイラストを添えて提示することで児童が内容を理解するのに有効であることを示した。佐藤ら(2020)は、「電子教材を使った英語の授業は分かりやすく役に立つと思っている。」⁶⁾と実態調査から児童もリスニングや動画視聴などデジタル教材を用いて行った授業の有効性を感じていることが分かった。これらのことから外国語教育でICTを活用することは有効であることが示されている。

しかし、これらの研究は教師がICTを使用して行った授業の研究結果である。教師だけでなく、児童自らがICTを活用して発表を行うことにより、発表する際の不安はより解消され、児童が進んで発表する姿を具現する手立てとしても有効ではないかと考え、本研究を行うこととした。

*柏崎市立柏崎小学校

2 研究の目的

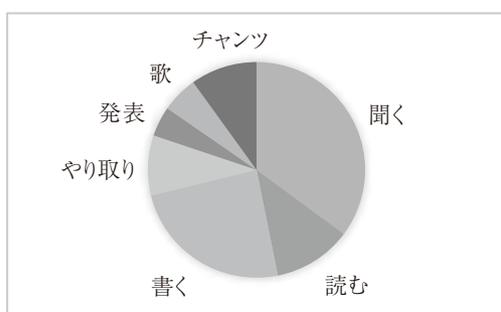
本研究では、「話すこと [発表]」の学習活動において、児童自らICTを活用して発表を行うことが、児童の発表に対する不安解消に有効な手立てとなるかを実践を通して検証する。

3 研究の内容と方法

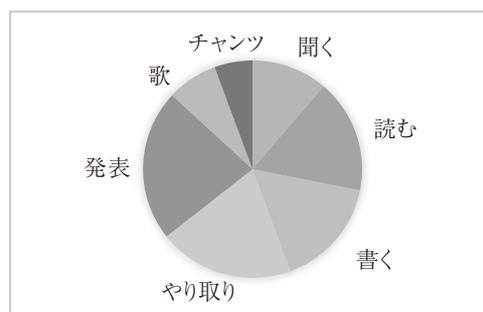
- (1) 実施期間：2021年5月～2021年7月
- (2) 対象： 新潟県公立A小学校6年生 児童62名
- (3) 指導体制：週2回の外国語の授業の内、1時間はMain teacher (MT) 及びAssistant Language Teacher (ALT) のTT授業、1時間はMTのみの授業で行った。
- (4) 使用機器及びアプリケーション：iPad, ベネッセ「ミライシード」オクリンク, じしょ君
- (5) 単元： 東京書籍 「NEW HORIZON Elementary 6」
「Unit 2 How is your school life?」「Unit 3 Let's go to Italy」
- (6) 児童の実態

対象となる児童に外国語に関するアンケートを取ったところ以下のグラフのような回答となった。(複数回答可)

今回の実態調査では、児童の外国語に対する肯定的意見と否定的意見の実態を知るため、「好き」及び「得意」を合わせて肯定的な意見とすることとした。



グラフ1 好き・得意だと思う活動



グラフ2 苦手だと思う活動

好き・得意だと思う活動に関しては、どの活動も肯定的評価が50%を超えるものはなかった。一番高かったのは「聞く」活動で39%であった。ついで「書く」27%、「読む」21%となっている。話す活動については「やり取り」が16%、「発表」は8%となっている。

苦手だと思う活動に関しては、どの活動も一定数いるものの、ほとんど活動は20%～30%程度であった。しかし、その中で「発表」が58%と他と比べて対象児童たちにとって顕著に苦手意識があることが伺える結果となった。その理由について、自由記述で回答を求めたところ、「発表」に関しては「みんなの前での発表は緊張するから」「英語の発音が合っているか分からないから」「途中で失敗したら嫌だから」などの不安が児童から回答された。

(7) 調査材料

- ① 事前事後に4件法を用いて作成した意識調査による児童の意識の変化を分析する。
- ② 事後に行った自由記述による質問調査から児童がICTを使ったことに有効性を感じているか分析する。

4 実践の概要

以下の手立てを児童に講じながら実践を行った。

(1) タブレット端末の活用

本実践では、以下の用途でタブレット端末を使用した。

① 発表用プレゼンテーション作成

対象の小学校のある市は、1人1台端末の導入で児童にiPadが配付された。それに合わせてベネッセのアプリケーション「ミライシード」が導入された。本実践では、この中にある「オクリンク」を使用する。この機能はカードを作成しつなげることでプレゼンテーションとして使用することもできる。カードの作成は、文字入力はもちろん、手書きで書くことも可能であり、画像の挿入やトリミングなども行うことができる。そのため、機器の使用やプレゼンテー

ション作成に慣れていない児童でも扱いやすいと考え、使用することにした。

② 発表に関わる英単語や情報の検索

英語で発表するにあたり、自分の伝えたいことの表現及び英単語を知っている必要がある。しかし、今までに学習していない英単語を使用する必要性が出てくることが予想される。また、相手に正しく伝えるために詳しく調べなければならない内容が出てくることが考えられる。そのため、iPadを用いて検索できるようにし、英単語が分からない場合には、アプリケーション「じしょ君」もしくはインターネットの翻訳機能を使用することにした。MTやALTに質問することも可能であるが、一度に多くの児童に対応できないため、併用することとした。また、内容について詳しく知りたい場合は、インターネットで検索することで正確に伝えられるように情報を得られるようする。

(2) 話したくなる、聞きたくなる課題・場面設定の工夫

各単元で以下のように課題や場面を工夫して発表の活動を設定した。

① Unit 2 How is your school life?

本単元では言語材料としてlive in, go to, usuallyを用いた表現を学習する。まとめの活動として、自分の宝物を紹介する活動が設定されている。しかし、自分のこととなるとlive in, やgo toでは同じ内容になってしまうことが予想できる。また、宝物が同じものになったり、思いつかなかったりする児童が多いことが考えられる。そこで、有名人やキャラクターになりきり宝物を発表することを単元末のまとめの活動として設定した。そうすることで、住んでいる場所や、普段すること、宝物が1人1人異なるようになり、話したくなる、聞きたくなる発表になると考えた。

② Unit 3 Let's go to Italy

本単元では言語材料としてsee, eat, buyなどの表現やgreat, fantasticなどの様子、味の語彙を学習する。まとめの活動として、旅行会社の社員になって海外の国を紹介する活動を行う。有名な国を選ぶ児童が多いことが予想されるため、最初に教師から国名は知っていても有名な観光地や食べ物は知らないであろう国を選び、モデルとして紹介することで興味を広げられるようにする。また、iPadや地図帳などを使いながら紹介したい国を選べるようにすることで、話したくなる、聞きたくなる発表になると考えた。

5 授業の実際

(1) Unit 2 How is your school life?

以下の計画で単元を進めていった。

表1 Unit 2 単元計画

| 時間 | 学習内容 |
|-----|--------------------------------------------------------------|
| 1 | ・Unit 2の学習について、見通しをもつ。 ・世界の子どものたちの日常生活などについておおよその内容を理解する。 |
| 2 | ・世界の子どものたちの日常生活などについておおよその内容を理解する。 |
| 3 | ・頻度の表現を理解し、普段することについてペアでたずね合う。 |
| 4 | ・自分の宝物を決め、ペアやグループでたずね合う。 |
| 5・6 | ・なりきる人物や宝物を決め、なりきり宝物紹介カードを作り、紹介に向けた準備をする。 |
| 7・8 | ・なりきった人物の宝物について紹介カード使って発表する。 |

1～4時間目では本単元で学習する言語材料や表現について学習した。5時間目の始めに、教師からモデルとなる発表を提示し、一人一人がなりきる人物（キャラクター）を考えて、なりきり宝物紹介の活動を行った。児童はアニメや漫画のキャラクター、スポー

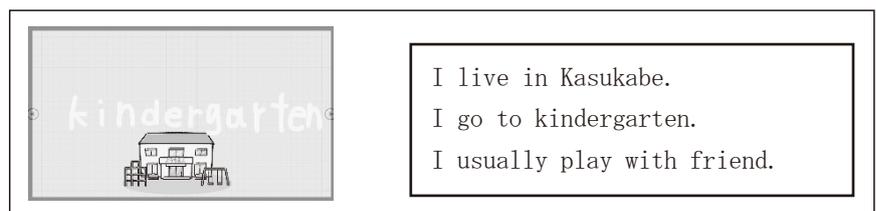


図1 Unit 2の児童の作成したカードの一部とセリフ

ツ選手などになって発表をした。自分の好きなキャラクターになりきることで、住んでいるところや行くところなど発表

に関する情報は知っていることが多く、スムーズに活動を進めることができた。また、いざ書こうとすると分からない情報も出てきたが、そういった場合はインターネット等を利用して詳しく調べることができた。一人一人が思い思いの人物になりきり、発表を行うことができた。

(2) Unit 3 Let's go to Italy

以下の計画で単元を進めていった。

表2 Unit 3 単元計画

| 時間 | 学習内容 |
|-----|------------------------------------------------------------------|
| 1 | ・Unit 3の学習について、見通しをもつ。 ・世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。 |
| 2 | ・世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。 |
| 3 | ・おすすめの国や地域とその理由を聞いたり、たずね合ったりする。 |
| 4 | ・おすすめの国を1つ決め、その理由を英語で書いたり話したりする。 |
| 5・6 | ・おすすめの国紹介カードを作り、発表に向けた準備をする。 |
| 7・8 | ・旅行代理店の店員になりきって、海外旅行でおすすめの国を発表する。 |

1時間目にモデルとして、アメリカとインドネシアの国の紹介を示した。児童はインドネシアについて国の名前を知っていたが観光地などについては知らず、最初は興味がなさそうな様子であったが、インドネシアでできることやお土産について発表すると興味をもった様子が伺えた。今回は始めに目標となるまとめの活動を提示し、発表に向けて言語材料や表現の学習を1～4時間目に行った。その後、おすすめの国を決め、発表の準備を進めた。地図帳やインターネット検索を利用することで、より詳しくそれぞれの国について調べることができ、観光地や食べ物について紹介したい意欲を高めることができた。

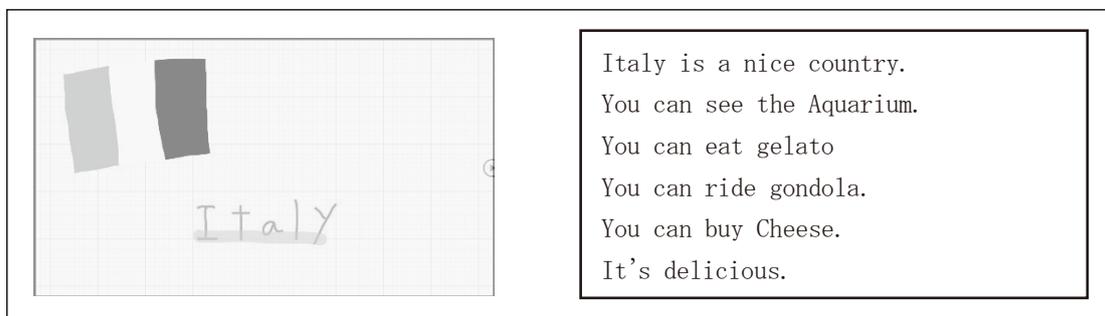


図2 Unit 3 の児童の作成したカードの一部とセリフ

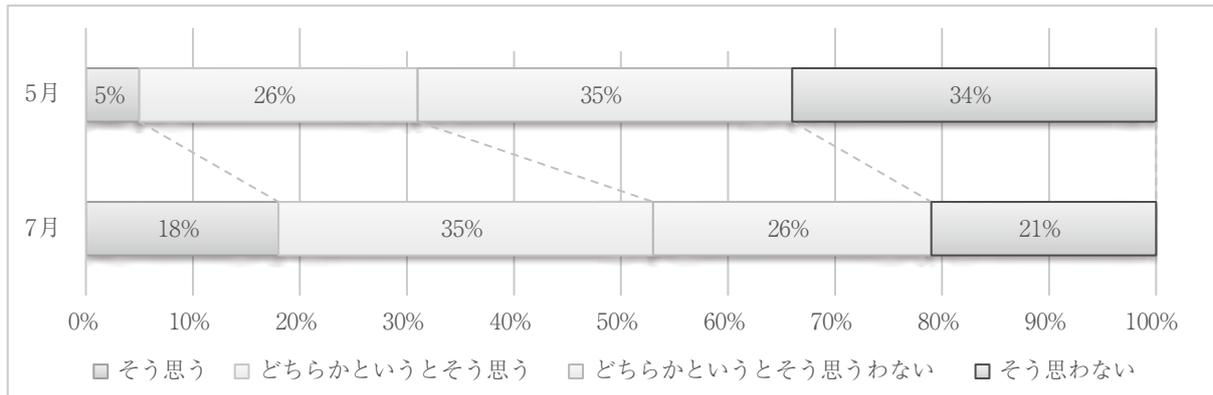
6 結果と考察

(1) 意識調査

児童へ授業前と授業後に発表についての意識調査を行った。以下がその結果である。事前事後両方で回答を得られたのは57人であった。

表3 授業前後の意識調査の結果

| 英語の発表する活動は好き・得意だと思いますか。 | 5月 (Unit 2 授業前) | | 7月 (Unit 3 授業後) | |
|-------------------------|-----------------|-----|-----------------|-----|
| そう思う | 3人 | 5% | 10人 | 18% |
| どちらかというと思う | 15人 | 26% | 20人 | 35% |
| どちらかというと思わない | 20人 | 35% | 15人 | 26% |
| そう思わない | 19人 | 34% | 12人 | 21% |



グラフ 3 5月と7月の意識調査の結果

5月は発表することに対して肯定的にとらえている児童が31%、否定的にとらえている児童が69%と7割近くが苦手意識もっている結果であった。実践後に再びアンケートを取ると、肯定的評価が53%、否定的評価が47%と発表の活動に対して、否定的にとらえる児童が減り、肯定的にとらえる児童が多くなった。また、否定的評価の児童の中でも「そう思わない」が34%から21%に減っていた。

さらに、変化についてまとめたのが下の表である。

表 4 授業の前後の変化の割合

| 肯定的変化 | 変化なし | 否定的変化 |
|-------|-------|-------|
| 25人 | 30人 | 2人 |
| 43.9% | 52.6% | 3.5% |

肯定的に変化したのは25人、変化なしが30人、否定的に変化したのが2人であった。肯定的に変化した児童が全体の43.9%であった。変化の内訳を詳しく見てみると以下の表のようになった。

表 5 肯定的変化をした児童の内訳

| 肯定的 → 肯定的 | どちらかというと思う → そう思う | 5人 | 20% |
|-----------|-------------------------|-----|-----|
| 否定的 → 肯定的 | どちらかというと思う → どちらかというと思う | 10人 | 52% |
| | どちらかというと思う → そう思う | 2人 | |
| | そう思わない → どちらかというと思う | 1人 | |
| 否定的 → 否定的 | そう思わない → どちらかというと思う | 7人 | 28% |

変化した児童の中で、「否定的から肯定的」に変わった児童が多く、変化した児童25人の内の約50%を占める。「そう思わない」から「どちらかというと思う」へと活動に対して否定的であるが変化の見られた児童も7人いた。反対に、否定的な捉え方に変った児童が2人いたが、それぞれ「どちらかというと思う → どちらかというと思う」, 「どちらかというと思う → そう思わない」への変化であった。

(2) 自由記述

タブレット端末を使用した発表する活動についての意識調査で、自由記述の回答を求めた。肯定的意見と否定的意見が出てきた。

表 6 自由記述の内容

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 肯定的意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクを使う発表だとカードを見ながら言えるから。 ・発表はいやだけど、画像を使っていると、言葉で伝わらないことも伝わったりする。 ・何も見ないで言うのは、自信がないから失敗しそうで不安だから。 ・カードがあることで、分からなくなっても少し安心してできた。 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・カードを作って発表するのは、やりがいがあって楽しい。 ・英語で話すだけの発表は楽しく感じられないが、カードを作って発表することで伝わりやすいから少しはいいと思う。 ・絵や画像があることで伝わりやすいと思う。 ・発表の途中で、言い方を忘れてしまったりすることがあるけど、カードがあることで確認しながら発表できるので安心できる。 |
| 否定的意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・話すことを考えるのも大変だし、スライドを作るのも大変だった。 ・ICTを使って発表するのはいいが、英語で発表するのは正しく言えている自信がないから。 ・操作になれていないからカードを作るのが大変。 ・作っている途中で通信が切れるので、読み込みをまったり、ログインし直さないといけない時が大変。 |

肯定的意見の中に「確認しながら発表できるので安心できる」「何も見ないで言うのは不安」という回答があった。発表する際に、「話す内容や言い方を忘れてしまったらどうしよう」という不安がある児童にとっては、オクリンクでカードを作成し、見せながら発表することで、相手に見せるだけでなく自分でも確認ができる。そのため、「話す順番や内容を忘れてしまったらどうしよう」という児童の不安解消につなげることができたと考える。また、「絵や画像があることで伝わりやすいと思う。」「言葉で伝わらないことも伝わったりする。」との回答があった。カードを作る際に、文字に絵や画像を組み合わせることで相手に伝わりやすくなり、発表者が「相手に伝わった。」という達成感を感じられていたと考える。その結果、発表に対する苦手意識が減り、発表の活動を肯定的にとらえる児童が増えたと考える。

一方で否定的意見な意見もあった。使い始めたばかりで慣れていないこともあり、端末の操作への不安が伺えた。発表が苦手な児童にとって不安が解消された面もあったが、「話すことを考えるのも大変だし、スライドを作るのも大変だった。」と発表の内容を考えた上でカードを作成することが負担に感じる児童がいることも明らかになった。また、通信環境を必要とするために起こり得る、再読み込みや予期せぬログアウトなどにICTの操作に関わるストレスを感じている児童もいた。

プレゼンテーション機能を用いることで、発表する内容を忘れてしまうなどの不安を解消することができた。しかし、英語の単語や表現を発話することについて不安をもつ児童の不安解消には今回の手立てでは不十分であった。

7 成果と課題

本研究では、「話すこと [発表]」の学習において、児童自らICTを活用して発表を行うことが、児童の発表に対する不安解消に有効な手立てとなるか検証を行った。授業前後での児童の意識の変化を調査した結果、一定数の児童が発表する活動に対して肯定的な変化が見られた。話す内容や順番について不安がある場合には、確認ができるため不安解消につなげることができた。また、言葉だけでなく絵や画像を見せながら行えることから、発表者が「相手に伝わった」と達成感をもつことができ、有効な手立てとなっていた。

しかし、英語を発話する際の単語の発音に自信がなく不安感をもつ児童の不安を解消することはできなかったため、更に手立てを考え、講じていくことが必要である。また、ICT機器の操作を苦手と感じている児童への支援方法も課題として残った。

【参考・引用文献】

- 1) 文部科学省 (2021). 『教育の情報化に関する手引き』文部科学省, p.1
- 2) 文部科学省 (2018). 『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』東洋館出版, p.73
- 3) 文部科学省 (2018). 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』文部科学省, p.99
- 4) 国立教育政策研究所 (2017). 『小学校英語教育に関する調査研究』国立教育政策研究所, p.2
- 5) 喜多容子 (2018). 「移行期間における小学校外国語の取り組み－ICTの効果的な活用について－」『鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要』第9号, pp.51-60
- 6) 佐藤裕子・染谷藤重 (2020). 「小学校英語におけるデジタル教材を活用した授業実践－授業後の児童の情意面に着目して－」『上越教育大学教職大学院研究紀要』第7巻, pp.233-241